

平成 29 年度学校関係者評価委員会提言に基づいた次年度にむけての喜多見小学校改善の方針

(1) 学習について 顕著な結果（％は「とても思う」と「思う」の割合）

評価者	評価項目	結果
児童	授業の内容はよくわかる	92%
児童	授業は楽しい	91%
保護者	子供たちにとって分かりやすい授業が行われている	82%

① 分析と提言

児童の「授業の内容はよくわかる」「授業は楽しい」の項目、保護者の「本校では子どもたちにとって分かりやすい授業をしている」のいずれにおいても、肯定的な回答が昨年度より増加した。国語の研究授業の充実、研修で得た知識の実践といった工夫がさらに実るとともに、主体的に児童が学習活動を楽しむことができる授業作りも進んでいると言えるだろう。そうした児童の様子が保護者にも伝わり、良い結果として表れていると思われる。

② 改善策

さらなる校内研究や日々の授業研究を通して視聴覚に訴える教材・教具を工夫し、さらに多くの児童が主体的に活動する意欲をもてるような授業改善を行う。また、学年で意見を交わしあいながら教材研究を深め、授業展開の幅を広めていくとともに、計算力アップテスト等で基礎基本の理解を促し、分かる喜びを実感させるなど、効果的な学習活動の工夫をしていく。

(2) 生活指導について 顕著な結果（％は「とても思う」と「思う」の割合）

評価者	評価項目	結果
児童	わたしは、決まりを守って行動している	92%
保護者	子供たちに問題となる行動が少ない	64%

① 分析と提言

児童の「わたしは、決まりを守って行動している」の肯定的な回答が 92%と一昨年より 10%以上増え、教師の指導について納得でき、きまりを守ろうとする意識が高まっていると考えられる。保護者については「子供たちに問題となる行動が少ない」の項目で、肯定的な回答が上昇していることから子供たちの規範意識が育ってきていると考えられる。

② 改善策

特別の教科「道徳」や日常の生活において、実践を通して善悪の判断を身に付けさせていきたい。また、昨年に続き、挨拶や言葉遣いを改善させる具体的な指導や活動を行い、喜多見の学び舎の合言葉『いいあせかこう』の取り組みについて十分な説明をして周知する。「あいさつをきちんと」について、美しい日本語週間や中学校と連携を取った挨拶運動、異学年交流活動等を通して実践していく。あいさつジャンケン（先にした方が勝ち）や全学年が取り組むあいさつ運動を行い、実践の場を増やしていく。

(3) 学校行事について 顕著な結果（％は「とても思う」と「思う」の割合）

評価者	評価項目	結果
児童	行事では、みんなが活躍するチャンスがある	91%
児童	先生はわたしたちのやる気を大切にした指導をしている	80%
保護者	子供たちが活躍する場面がたくさんあり内容が充実している	76%

① 分析と提言

児童、保護者ともに「活躍する場所がある」の質問に対して、児童は 91%、80%近くの保護者が肯定的な意見であり、昨年度よりも増加している。さらに、児童への質問である「先生はわたしたちのやる気を大切にした指導をしてくれる」に対しても 80%と肯定的で増加傾向が見られた。今年度から、1年生から6年生の小集団で構成したたてわり班活動「なかよしタイム」を実施したことで高学年としての活躍の場が増えたことも理由として考えられる。

今後も、児童が主体的に取り組むことのできる行事への取り組みを行、児童会活動を活かし、計画や実践に時間の余裕を取り、児童の意見を取り入れて達成感を味わわせるようにする。

②改善策

今後も、児童が主体的に取り組むことのできる行事への取り組みを行っていく。児童会活動を活かし、児童の発想による運動会などの取り組みを考えていく。計画や実践に時間の余裕を取り、児童の意見を取り入れて達成感を味わわせるようにする。

(4) 学校運営について 顕著な結果（％は「とても思う」と「思う」の割合）

評価者	評価項目	結果
保護者	学校の重点目標が明確である。	67%
保護者	校長はリーダーシップを発揮している。	78%

① 分析と提言

学校の重点目標や、校長のリーダーシップについての項目では保護者ともに「とてもそう思う」の意見が昨年・一昨年度に比べ増加している。しかし、「分からない」という回答が 10%台と変化がなく、昨年同様に周知することが課題である。

②改善策

今後も、年度始めの学校便りや保護者会にて説明の機会を設け、情報を発信していく。特に、保護者会の出席を促し

て多数の方に来ていただけるよう、工夫していく。学校便り、学年便りで、わかりやすい表現や興味をひく記述をし、継続的に周知をしていく。

（５）教職員について 顕著な結果（％は「とても思う」と「思う」の割合）

評価者	評価項目	結果
児童	先生は、いつも熱心に教えている。	90％
児童	先生は、よくわたしの話を聞いてくれる。	89％
保護者	本校の教職員は、教育活動に熱心に取り組んでいる。	84％

① 析と提言

児童については、どの項目も増加がみられる。特に、一昨年からの課題であった「公平でひいきをしない」「よく話を聞いてくれる」の項目に大きな伸びがみられる。保護者についても、「教育活動への熱心さ」「社会人としてのマナー」などについて肯定的な意見が８０％を越えている。

② 改善策

今後も、親身になって児童の話を聞き、保護者への連絡や相談を密に行って連携を取るなど、児童や保護者からの信頼を得る努力をしていく。

（６）広報活動・情報提供について 顕著な結果（％は「わからない」の割合）

評価者	評価項目	結果
保護者	学校公開や保護者会を通して、学校の様子がよく分かる	88％
保護者	本校のホームページは、充実している。	64％

① 分析と提言

保護者について、「学校公開や保護者会をととして、学校の様子がよくわかる」は１０％近く増ええいる。今後も学校の教育活動についてより分かりやすく発信する機会を増やすことが必要である。ホームページについては、ほぼ横ばい傾向にあるが、「分からない」という回答が２０％近くを占めている。

② 改善策

ホームページの更新回数は区内トップクラスであることから、さらに興味をもって見ていただく手段を工夫することが課題である。学校便りや学年便り等で内容について周知していく。更新内容に関係する児童たちにホームページに掲載されていることを伝え広めていく。

学校便りや学年便りの内容の充実に努め、学校の様子について伝えていく。

（７）地域との連携について 顕著な結果（％は「わからない」の割合）

評価者	評価項目	結果
保護者	地域の人材や施設を教育活動に生かしている	77％
保護者	「学び舎」の区立中学校について、十分に情報提供がされている	54％
保護者	地域の活動や行事によく協力してくれる	83％

① 分析と提言

「学び舎」の活動について、保護者の肯定的な回答は一昨年、昨年度と比べて横ばいである。児童の「学び舎」の区内中学校との交流や小中学校合同での授業研究や挨拶運動、育てた野菜の交換、展覧会での作品展示等の活動は行われているが、高学年児童の交流が主であり、広く保護者全体への周知は難しいところがある。また、地域行事の活動に関しては、各地域のお祭りに教員が顔をだしたり、喜多見地区区民祭りで教職員がお店を出したりして地域との交流は活発な方である。今後も協力していきたい。

②改善策

学び舎での活動をより積極的に周知していけるよう、学校便りの配布等で学び舎としてお互いの様子を伝えていく。

（８）学校の安全性について 顕著な結果（％は「とても思う」と「思う」の割合）

評価者	評価項目	結果
保護者	本校の施設の安全性は確保されている。	73％
保護者	本校では、校内の環境や給食等への衛生面の配慮がなされている	87％

① 分析と提言

どの項目も毎年若干の増加傾向にある。古い建物ではあるが毎月の安全点検で修理・補修しているので教育活動に支障が起きないようにしていることは理解されていると思う。「校内の環境や給食等への衛生面の配慮がなされている」についての肯定的意見は、昨年度に引き続いて８０％を超えている。給食試食会での調理の衛生管理についての説明、給食便りの内容の充実、校内美化等の取り組みが評価されたものと考えられる。

② 改善策

今後も、災害や不審者等の対策について情報を発信し、保護者が安心して児童を学校へ送り出すことができるよう、万全の対策を取っていく。環境や衛生面の配慮においても、継続して取り組んでいくようにする。

（９）学校生活全般について 顕著な結果（％は「とても思う」と「思う」の割合）

評価者	評価項目	結果
保護者	本校の子どもたちは学校生活が楽しいと感じている	90％
児童	毎日の学校生活が楽しい	92％

① 分析と提言

児童について「毎日の学校生活が楽しい」は肯定的な回答が増加傾向にある。保護者についても、どの項目も若干の増加傾向がみられ、特に「本校の子どもたちは学校生活が楽しいと感じている」の項目の肯定的な回答は90%以上である。

② 善策

10%の児童が「学校生活が楽しい」と感じられないことがあるという結果を思う重く受け止め、保護者や児童の声に耳を傾けながら、より充実した学校生活の実現を目指していく。日頃から学級活動を充実させ、行事等で児童の意見が反映されるような取り組みを行っていく。教員、スクールカウンセラーと連携し児童一人一人の声を聞き取る体制をより充実させていく。

(10) 独自項目について 顕著な結果（%は「とても思う」と「思う」の割合）

評価者	評価項目	結果
保護者	子どもたちは、あいさつをよくする	60%
地域	子どもは、あいさつをよくする	88%
児童	わたしは、毎日あいさつをよくする	79%
保護者	子どもの言葉遣いがよい	49%
地域	子どもの言葉遣いがよい	77%
児童	よい言葉づかいをしている（目上の人に対する言葉遣いなど）	72%
保護者	子どもは、本を読むことが好きである	63%
児童	わたしは、本を読むことが好きである	73%

① 分析と提言

保護者では、「子どもたちは、あいさつをよくする」「子どもの言葉遣いがよい」についての否定的な回答が40%近くに上り、昨年に引き続き具体的な取り組みが課題となっている。児童の「よい言葉遣いをしている」の項目では肯定的な回答が増え、保護者・児童とも言葉遣いに対する実践力に課題意識をもっていることが分かる。また、読書については、高学年になるにつれて読書の時間が少なくなっていく傾向にある。

② 改善策

年度初めや各学年の保護者会で家庭にも呼びかけ、学校や家庭における挨拶や言葉遣いの指導の浸透を習慣づけていく。生活目標に挨拶を掲げたり、朝の挨拶運動を引き続き行ったりするなど、具体的な取り組みを継続して児童の意識を高める。言葉遣いについても、相応しくない言葉遣いは云い直しをさせる指導を行い、家庭とも連携して日常的に言葉遣いを意識させるとともに、美しい日本語週間などを活用してきれいな日本語を使えるように指導していく。

読書については、低学年には保顔者による読み聞かせを継続していただき本の楽しさを味わわせていく。また、中・高学年には読み聞かせから自分で本を読む時間を多くすることで、読書習慣を身に付けさせていく。